



地域日本語支援ニュース こだま 第 266 号

2014.11.27



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■ともに生きる■

ご寄稿「協力してつくった進学ガイダンス」 小林あけみ氏

2■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報 *更新情報はありせん

=====

1■ともに生きる■

協力してつくった進学ガイダンス

群馬県太田市立宝泉小学校国際教室

小林 あけみ

太田市で、平成 23 年に高校進学ガイダンスを始めたのは、生徒の一番身近にいるバイリンガル教員の方々が中心でした。隣の市の埼玉県深谷市でボランティア市民が実施している「高校進路ガイダンス」でも実行委員をしていた太田市の小林あけみ先生は、そのガイダンスを参考にしながら、太田市でも計画、実施されたのでした。その模様を紹介していただきます。

☆☆☆☆☆☆☆☆

◆太田市のバイリンガル教員◆

太田市のバイリンガル教員※は、母国または日本で教員免許を持っており、日本人教員のアシスタントではなく、自ら教える事ができる立場にある。現在女性 8 名。

中には小学校 5 年生でペルーから来日し、日本の大学を卒業し教員となった人もいて、生徒の苦労がよくわかり親身になって働いてくれている。彼女たちは、月に 2 回ほど勤務を終えてから勉強会を行なっている。私もメンバーに入れてもらっているが、日本の学校の中で自分達のできること、また保護者や児童生徒をどのように指導していったら良いのか、そして子ども達のこれからのことなど、研修の課題は沢山ある。

そんな中、中学校での進路指導の面談について、バイリンガル教員が在籍しない学校は正確に保護者に情報が伝わっているか不安だという話題になった。生徒が保護者に学校の進路指導の内容を訳しても、子ども達の母語が十分でないため正確に伝わっているのか疑問だというのである。

◆太田市の第 1 回 高校進学ガイダンス◆

そこで、私の住んでいる深谷市でのガイダンスを参考に太田市でもガイダンスを開くことにした。深谷市の運営方法などを参考にさせてもらい、何度も会議をして平成 24 年の 9 月に小学校の体育館を借りて第 1 回のガイダンスを行なった。深谷市は通訳を探すのが大変だが、太田市はバイリンガル教員で通訳は間に合う。しかし、日本人のスタッフや高校の関係者がいない。何とかお願いして、公立高校を退職した校長先生と市内の私立高校校長先生に来ていただき話をしてもらった。

来場した生徒や保護者のアンケートにあった「とても良かった」「有意義だった」との言葉に励まされ、第 2 回を平成 25 年 10 月に行なった。この時は、外国人生徒がたくさん在籍する「太田フレックス高校」の先生も参加して下さった。2 回の経験から、中学 3 年生にとって秋に行うガイダンスでは、志望校に向けて努力するには遅いのではないかという意見が出た。そこで、今年は高校のオープンキャンパスに間に合うよう 6 月に行なった。

これまでも上回る 34 家族（約 70 名）が参加し、公立高校 2 校の先生と私立高校 2 校の先生も参加してくれた。また、ようやく今年度から、市の教育委員会が後援となってくれた。

◆課題◆

3 回行なっても課題は沢山ある。まず、予算がないことである。今回、市の教

育委員会が予算について検討するといってくれたが、具体的には何も決まっていない。

内容についても日本の入試制度そのものがわからない保護者がいるのであらかじめ丁寧な説明が必要であったり、生徒の聞きたいことと保護者の聞きたいことが異なっていたり等見直すべきことは沢山ある。

一方私達が教えた子ども達が高校生や大学生となり、体験発表で自分の夢や勉強の大切さ、高校生活のすばらしさを参加者に語ってくれるのは、何とも嬉しい限りである。

現在、国は国際化に伴い留学生をたくさん日本に呼び込むため、9月入学制度などを取入れようとしている。しかし、足元を見ればこれから大人になる外国人児童生徒がたくさん身近にいるのである。その子ども達の教育についてもぜひ、国の重要課題として位置づけて欲しいと思う。

なぜならば、親の都合で来日、または日本で生まれた彼らは、日本の社会で成長し、今後も仕事を見つけ、定住しようと思っている。この子ども達の学習や将来の夢が保障され安心して暮らせる多文化共生の社会を世界に発信していけば必ず留学生も魅力を感じて増えるのではないかと思うのである。

私自身は、今後もバイリンガルの先生達と共にガイダンスの継続はもちろんのこと、外国人児童生徒や保護者が今必要としていることを見つけ、支援していけたらと思っている。

※太田市のバイリンガル教員：児童生徒の母語が話せる教員（主にポルトガル語 ス페인語）初期指導、日本語指導、保護者への指導をする。太田市教育委員会所属。

☆ 皆様からのご感想をお寄せください。☆
